【53】

氏名（本籍）	洪　顕哲（ほん ひよん ちよる）（韓　国）
学位の種類	理学博士
学位記番号	博甲第745号
学位授与年月日	平成2年3月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	ソウル市における結節地域構造とその変容に関する地理学的研究

主査	筑波大学教授	理学博士	奥野隆史
副査	筑波大学教授	理学博士	山本正三
	筑波大学教授	理学博士	佐々木博
	筑波大学助教授	理学博士	高橋伸夫
	筑波大学助教授	理学博士	斎藤功

論文の要旨

本論文は，韓国の首都ソウル市が有する結節地域の階層構造の明確化，その構造の時系列的変化過程の解明，およびその変化をもたらした要因の分析を目的としたものである。

論文では，初めに，1977年・1982年・1986年の3年次を対象として地域間の機能的連鎖を最も端的に表わすパーソントリップのOD資料に対して高層因子分析を行ない，それによって3年次ごとの結節地域を見出した。それによると，ソウル市は3段階よりなる構造から4段階のそれに多層化していること，および，1977年においては都心に当たる鍾路地区を核として低次の諸結節地域がその周辺に配列するという一極同心円構造が認められたが，その地区の結節性の強化による周辺部との統合および漢江南岸の江南地域における永登浦地区や城東・江東地区の結節性の向上が原因となり，多核心扇形構造が1986年には形成されるに至ったことの2点が明らかになった。このような変化に対して大きく寄与したものは，江南地域における結節地域の分割と統合である。

次に，地域の結節性を規定する人の流動に影響を与える変数として人口・土地利用・交通を取り挙げ，これらの変数の3年次にわたる変化を134地区ごとに検討し，それによって上述のような結節地域構造の変化要因の摘出を試みた。その結果，1977年から1982年までについては，江北地域では居住人口の増加とそれに伴う住宅・商業・業務施設の増大，江南地域西部では工業施設の増加とそれに起因する人口・教育施設・住宅面積の増大，同地域東部では人口と土地利用の多様な増加などが主な要因であるといえる。1982年から1986年の間については，江北地域では地下鉄網の新設が最大の要因であり，江南地域西部では前期間と同様の要因が作用し，同地域東部ではオリンピック大

会用の諸施設の新設とそれに伴う交通網の整備および土地利用の変化が主因となったことが判明した。

審　査　の　要　旨

都市地理学において都市域内部の結節構造の解明は最も基礎的な課題の１つであり，多数の研究例が蓄積されてきた。1960年代から開始された計量的方法の適用によって結節構造は旧時に倍して鮮明となり，結節地域の核部の存在およびその補完地域の範囲が正確に把握されるに至った。しかし，結節地域の重合関係すなわち階層性についてはその導出に成功していなかった。本論文は，因子分析の反復操作つまり高層因子分析の援用によってこの階層性の導出問題を解決したものである。この成功によって，ソウル市の結節地域構造が1972年からの15年間に３層のものが４層のものに変化したこと，この変化に資した地域が江南地域であり，そのことからソウル市が同心円構造から多核心構造へ変化を遂げたこと，およびこの変化を規定する要因は地域によって異なるものの最近では交通網の新設に帰せられることなど，明確な知見を得ている。こうしたことは，都市構造分析の方法論の発展に貢献するとともに都市構造論に新しい展望を与えるものと考えられ，高く評価できる。

よって，著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。